ステーキ肉の重さの計量の不確かさ評価の問題点

要因の見積り

1. WC9710Bの表示分解能を下げ、最小表示桁を0.1 gとしているため、読み取り分解能は±0.05 gと評価されるべきである。
2. WC9710Bの長期安定度は、①過去5年間の校正履歴の(最大値－最小値)の差0.04 gは全値なのでその半値の±0.02 gとする、②過去5年間の校正履歴から1年間当りの最大変移の±0.03 gとする、のいずれかの値と見積もられるべきである。
3. 発泡スチロールトレイの質量をオフセット値(風袋)として設定して計量を行っているため、発泡スチロールトレイのカタログ規格±0.015 gが評価されるべきである。
4. 繰返し測定の評価が行われていない。

不確かさ計算

1. WC9710Bの校正の不確かさは*k*＝2で与えられているため、標準不確かさにする場合の除数は2である。
2. WC9710Bの読み取り分解能は、矩形分布／一様分布と考えられる。従って除数は√3になる。

コメント

1. バジェットシート上で標準不確かさや合成標準不確かさをもう1桁多く記述した方が良い。